

3,650USドル/トン、6月16日受渡し物が2ロット4万3,650USドル/トン、5月21日受渡し物が1ロット4万1,800USドル/トン、3ヶ月先物が1ロット3万9,650USドル/トンなどと続いた模様。

取引量などの詳細は明らかになっていないが、モリブテン価格は3ヶ月先物が3万7,500~3万8,500USドル/トン(17.01~17.46USドル/ポンド)となったものと見られる。なお、モリブテンの取引開始前の時間外取引での価格は3万5,000USドル/トン(15.87USドル/ポンド)、Metal・Bulletinによる直近価格は19日時点で17~17.50USドル/ポンドであった。

一方、コバルトの3ヶ月先物価格は3万9,950~4万USドル/トン(17.82~18.14USドル/ポンド)、15ヶ月先物は3万9,000~3万9,500USドル/ポンドと逆ザヤ状態となった模様。なお、コバルトの取引開始前の時間外取引価格は4万1,800USドル/トン(18.96USドル/ポンド)、Metal・Bulletinによる直近価格は19日時点で18.75~20.30USドル/ポンドで

あった。

初日の取引を終えて市場関係者は、取引は驚くほど低調であったが、今後徐々にニッケルや銅などの市場関係者が参入してくるだろうとの感想を述べていた。

この上場に先立ち、10日にLMEが開催したセミナーにおいて、LME最高経営責任者Martin・Abbott氏は、LMEの取引高が2008年の10兆USドルを超えていること、全世界の95%に及ぶ金属現物取引にLME指標が取り入れられていることを挙げ、LMEへの上場は、一部地域の偏在要素を排除し、より公正な価格形成に寄与するだろうと述べた。また、当面のコバルト・モリブテン市場は、従来のアルミや亜鉛等の事例を挙げ、何らかの市場の動きがあるまで、数ヶ月から2年程度は比較的静かな状況が続くだろうと予想した。

これらの上場については、従来から業界内に賛否両論があるが、しばらくは様子見という時期が続くのではないかと見られる。



## 2月のアルミスクラップ月刊レポートと3月の見通し 橋本金属×アルミ 橋本健一郎氏

### 内外価格差で輸入物買えず 国内原料を積極手当

概況：前半、ギリシャ懸念に世界経済が揺れる中、好調な中国経済、また回復基調にある米経済の相方が予想外の金融引き締めを行ない波瀾の展開。後半はギリシャ懸念後退とFRBバーナ

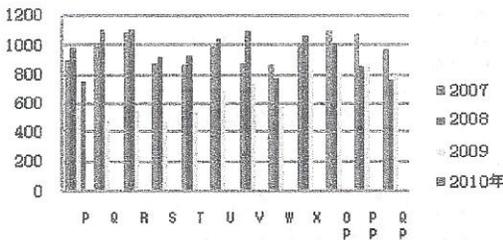
ンキ議長金融緩和継続発言を受け安心感からLMEアルミは2,100ドル台へ上昇。アルミ新塊ベースの軽圧向け上物スクラップは前月からの下げに伴い15円程度下落。ただ2次合金向けスクラップは上海シグマD12Sの2,300ドル維持やロシア塊の2,000ドル維持を受け代替品需要が急増。価格が需給に左右される代替品アルミスク

|       | 11月      |
|-------|----------|
| 生産台数  | 85万9677台 |
| 前月比   | +4.7%    |
| 前年同期比 | -16%     |

|       | 12月      | 1月       |
|-------|----------|----------|
| 生産台数  | 78万8067台 | 75万3773台 |
| 前月比   | -8%      | -4.4%    |
| 前年同期比 | -15%     | -20.5%   |

自動車生産台数推移

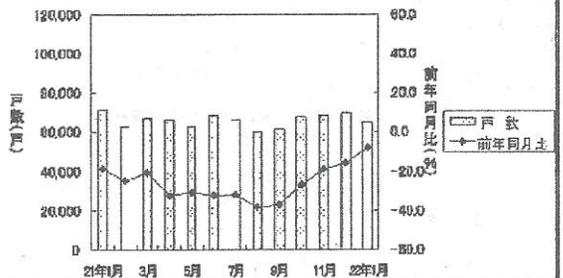
自動車生産実績



出典 日本自動車工業会

新設住宅工数推移

新設住宅(戸数・前年同月比) 出典 国土交通省 統計



|           | 11月     |
|-----------|---------|
| 日本新設住宅着工数 | 6万8198戸 |
| 前月比       | +1.8%   |
| 前年同期比     | -8.5%   |

|           | 12月     | 1月      |
|-----------|---------|---------|
| 日本新設住宅着工数 | 6万9298戸 | 6万4951戸 |
| 前月比       | +1.6%   | -6.3%   |
| 前年同期比     | -14%    | -14%    |

ラップは原料逼迫から下げ切れず、事実上据え置いた。

1月の経済指標：日本自動車工業会発表による自動車生産台数は前月比4.4%減の75万3,773台(前年同月比20.5%減)となった。また国土交通省発表の新設住宅着工戸数は前月比6.3%減の6万4,951戸数(前年同期比14%減)であった。

貿易関連指標：財務省貿易統計による輸出では、アルミ新地金が前月比66%増の220トン、2次合金が同36.6%減の1,988トン、スクラップが同29.6%減の8,815トンとなった。また輸入では、新地金が前月比7.1%増の15万5,290トン、2次合金が同1.7%減の7万3,440トン、アルミスクラップが同9.5%増の760トン、2次合金原料としての需要が多い合金スクラップが同8%減の4,173トンとなった。

12月の国内指標：日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向による板類・押出生産合

計は前月比7.6%減の14万7,997トン(前年同期比18.6%減)となった。また日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム2次合金・同合金地金等生産実績は前月比0.2%減の6万5,227トン(前年の前月比27%減)であった。

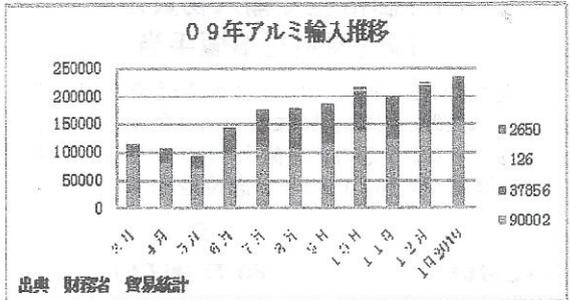
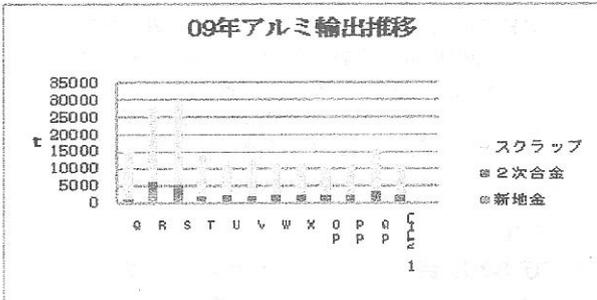
見通し：1月は自動車生産・2次合金生産とも季節要因で前月比ではマイナスとなったが、前年の同期比からはそれぞれ9%増・3%増と改善されており今後も回復が期待できる。しかし新設住宅着工数の伸び悩み同様、圧延・押出品生産数も前月比との比較で改善率が14%減の下落とまだまだ回復は期待できない。貿易は国内在庫のひっ迫感から輸出減輸入増にはなっているが内外価格差から積極的に買えず輸入も一桁の伸びとなった。LME価格については米中の金融引き締め、ギリシャ問題も乗り越え今だ2,000ドルから2,100ドル台を推移、今後もこの水準と見られる。価格が需給に左右されるアルミスクラップに関しては内

| 輸出    | 11月    |
|-------|--------|
| 新地金   | 77 t   |
| 前月比   | -43%   |
| 2次合金  | 1972 t |
| 前月比   | -17%   |
| スクラップ | 8918 t |
| 前月比   | +10.6% |

輸出推移

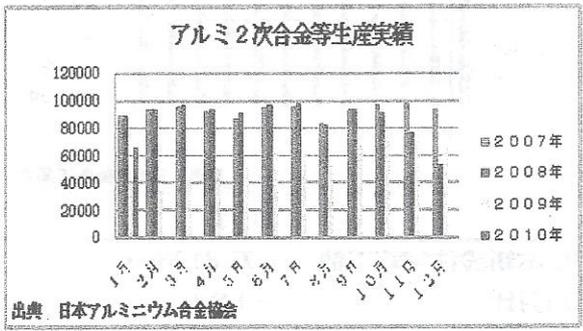
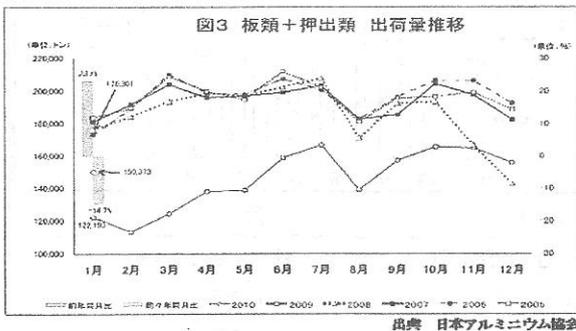
| 輸出    | 12月      | 1月     |
|-------|----------|--------|
| 新地金   | 132 t    | 220 t  |
| 前月比   | +70%     | +66%   |
| 2次合金  | 3136 t   | 1988 t |
| 前月比   | +59%     | -36.6% |
| スクラップ | 1万2521 t | 8815 t |
| 前月比   | +40%     | -29.6% |

輸入推移



| 輸入      | 11月       |
|---------|-----------|
| 新地金     | 12万1540 t |
| 前月比     | -13%      |
| 2次合金    | 7万3955 t  |
| 前月比     | +6.2%     |
| スクラップ   | 378 t     |
| 前月比     | -21.7%    |
| 合金スクラップ | 4478 t    |
| 前月比     | -21.6%    |

| 輸入      | 12月       | 1月        |
|---------|-----------|-----------|
| 新地金     | 14万4971 t | 15万5290 t |
| 前月比     | +19%      | +7.1%     |
| 2次合金    | 7万4718 t  | 7万3440 t  |
| 前月比     | +1%       | -1.7%     |
| スクラップ   | 694 t     | 760 t     |
| 前月比     | +83%      | +9.5%     |
| 合金スクラップ | 4539 t    | 4173 t    |
| 前月比     | +1.3%     | -8%       |



需中心の軽圧用スクラップは5円から10円の下げ要素があるものの、2次合金スクラップに関しては前月同様、国内原料はほとんどなく、また上海シ

グマ、ロシア塊、等の輸入塊も値下げの要素が見当たらないことから原料争奪戦は継続、3月後半にかけても5円から10円上げと予測する。

## 故銅 市況

# 建値1万円上げ余地、強保ち合い だが荷動きなく実商いは閑散

4日入電の海外相場は、ギリシャ財政不安の後退によるユーロ高・ドル安や投機資金の流入を背景にLME・NYともに続伸した。海外相場の堅調を受けて国内建値計算値も1万円の上げ余地が発生しており、故銅市況は強保ち合いで推移している。

LME銅相場は、前日比159ドル上昇し7,548ドルとなった。NY銅相場は前日比2.35セント上昇し341.90セントとなった。為替動向はギリシャ財政不安の後退を背景に海外市場でユーロ買い・ドル売りが進んだことを背景に対円でドルが売られ、TTSは前日比0.11円、円高・ドル安の89.52円となった。NYカーブ(現物換算値)は45ドル安で、ここから算出した国内採算値は71万円弱となり、現行建値水準と比べて1万円高。

建値に1万円の上げ余地が発生していることから「場合によっては5日にも再び建値が引き上げられる可能性も出てきた」(大手問屋)と、指標値は強含みで推移している。ただし「荷動きは小口の定期物が来るくらいで、その回数も減っている」(複数の問屋)ため、実商いは閑散としている。「ここしばらく5トンとかロット物は来ていないので、値段も付けていない」(先の大手問屋)など、「個別で買っていくしかない」(別の大手問屋)のが実情。「海外相場が7,500ドルを超えて普通なら高値警戒感が出るころだが、今はチリ地震の影響もあるので先がどうなるかまったくわからない」(同)ため、売り買いともに様子見

ムードが強い。

各大手問屋の買い唱え(5トン前後)のは、ピカ線はおおむね61万円～62万円を中心とするところが大勢、要り用筋で63万円中心。その他品種の中心買値はおおむね上銅新は59万5,000円、上銅普通は58万5,000円、並銅は53万5,000円、込銅は51万円、下銅は47万円、セパは45万5,000円、コーペルは43万5,000円、黄銅削粉は40万5,000円、並青銅鋳物削粉は42万5,000円どころ。

市中相場(1トン前後)はピカ線58万5,000～61万5,000円、上銅新くず57万5,000～59万5,000円、普通上銅56万5,000～58万5,000円、2号銅線50万5,000～52万5,000円、並銅51万5,000～53万5,000円、込銅48万5,000～50万5,000円、下銅44万5,000～46万5,000円、セパ43万5,000～45万5,000円、コーペル42万～43万5,000円、黄銅棒材42万円～43万5,000円、黄銅削粉40万～41万5,000円、黄銅ラジエター25万9,000円～26万4,000円、交ワラジエター31万2,000円～32万2,000円、黄銅鋳物28万円～29万5,000円、同山送り23万7,000円～24万1,000円、上青銅鋳物41万円～41万6,000円、並青銅鋳物39万7,000円～41万2,000円、上青銅鋳物削粉40万3,000円～40万9,000円、並青銅鋳物削粉38万9,000円～40万9,000円どころ。

### 3月前半・2次合金メーカー買値実勢値

(置場・現金・キロ当たり円)

#### 関東地区

2S=151～160円、63S=149～159円、アルミホイール(1P)=148～157円、ビス付サッシ=127～134円、缶プレス(ソフト)=107～124円

#### 関西地区(2月後半)

2S=150～160円、63S=148～158円、印刷板=155～165円、機械鋳物=125～133円、ドライ粉=108～118円、ビス付サッシ=124～133円、缶プレス=115円～125円

## 故銅・銅滓 アルミ原料

### 高価即金買入

《ご照会を乞う》

## 森下商店

大阪市西成区南津守7-12-46

TEL (06)6659-5577～8

FAX (06)6659-5579

## アルミ・銅 高価買受

### 柳金属産業(株)

☎072-770-3582  
日刊金属を見たと  
お申しつけ下さい